

天智天皇の皇胤こういんと弥勒みろく像

かんしょういん
観松院弥勒菩薩の来歴

奥原 國乗

天智天皇の皇胤と弥勒像 観松院弥勒菩薩の来歴 * 目次

| | | |
|-----|-----------------|-----|
| I | プロローグ | 5 |
| II | 古代史と安曇野 | 13 |
| 1 | 信濃に残された | 14 |
| 2 | 日本最古級の金銅仏2體 | 18 |
| 3 | 観松院弥勒菩薩の来歴の謎 | 23 |
| 4 | 弥勒信仰とは | 30 |
| 5 | 松川村に残る古文書 | 30 |
| III | 朝鮮半島・ | |
| | 中国大陸とのつながり | 39 |
| 5 | 山東半島の斉と铸造仏 | 40 |
| 6 | 山東半島文化の起こり | 45 |
| 7 | ガンダーラ仏教の祖 | 54 |
| | ——謎多き月氏(秦氏の祖) | 54 |
| IV | 観松院弥勒菩薩の謎 | 61 |
| 8 | 失われた右手の印 | 62 |
| 9 | 神野寺の菩薩半跏思惟像 | 70 |
| 10 | 宝冠のモチーフの持つている意味 | 76 |
| V | 仏像のルーツを読み解く | 89 |
| 11 | 铸造仏の伝搬経路 | 90 |
| 12 | 倭人の国 | 94 |
| 13 | 筑紫君磐井と朝鮮半島の動向 | 97 |
| 14 | 2説ある仏教伝来記録 | 106 |
| 15 | 丁未の乱 | 115 |
| 16 | 『善光寺縁起』 | 121 |



I
プ
ロ
ロ
ー
グ

本書を出版するに当たって筆者は、その本のタイトルに「天智天皇の皇胤と弥勒像」という少しばかり刺激的なタイトルを選んでみた。はたして観松院の金銅弥勒菩薩半跏思惟像の最終的所有者が、乙巳の変による大化の改新を成し遂げた天智天皇が隠さねばならなかった御子であったかどうか、これを読者の皆様には、読了後、最終的に判断いただきたい思いで、あえてこのタイトルをつけさせていただいた。そして、執筆は「観松院弥勒菩薩の来歴」という仮題のもと進めてきたので、これを副題として残すことにした。

長野県北安曇郡松川村町屋に、一説には6世紀に製作されたという百済由来の弥勒仏が祀られている。青銅で鑄造された30cmに満たない念持仏である。念持仏とは、王が移動の時に常に携行し、傍らに置いてこの御仏の加護に預かるための小型の携行仏像のことをいう。

由緒ある寺の跡もない信濃の奥深い田舎の、ただ粗末な辻堂に安置されて残された弥勒菩薩。その由緒の正しさは、戦後になって初めて、奈良国立博物館長になった倉田文作氏によって明らかにされたのである。

何故このような田舎に、6〜7世紀であれば国家の最重要な財宝ともいえる金銅仏がやって来たのか。何かそれなりの理由があるに違いない。筆者は、この弥勒仏の過去を掘り起こしてその理由を明らかにしたいと思った。

その調査の中で、強烈な弥勒信仰者であった王に遭遇したのである。その王とは、



著者略歴

奥原 國乗（おくはら くにのり）

昭和25年1月1日、長野県北安曇郡松川村生まれ、在住

明治大学工学部卒業

ゲーティンステイチュート語学留学、ハンブルグ大学聴講生

光学機器開発の有限会社ハイメック会長

前松川村商工会会長

観松院弥勒菩薩研究会会長

安曇野懇話会（前安曇族研究会）会員

天智天皇の皇胤と弥勒像

観松院弥勒菩薩の来歴

2022年11月30日 発行

著者 奥原 國乗

発行者 木戸ひろし

発行所 ほおずき書籍株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5

☎026-244-0235

www.hoozuki.co.jp

発売所 株式会社星雲社（共同出版社・流通責任出版社）

〒112-0005 東京都文京区水道1-3-30

☎03-3868-3275

ISBN978-4-434-31277-9

乱丁・落丁本は発行所までご送付ください。送料小社負担でお取り替えます。

定価はカバーに表示してあります。

本書の、購入者による私的使用以外を目的とする複製・電子複製及び第三者による同行為を固く禁じます。

©2022 Okuhara Kuninori Printed in Japan